

江東シーサイドマラソン大会



潮風を受けて4,108人が疾走

▲湾岸を駆け抜けるランナーの皆さん

11月25日、夢の島競技場を起点に、第38回江東シーサイドマラソン大会が開催され、ハーフ・10kmの各部門に16〜83歳までの4,108人が参加し、うち3,902人が完走しました。今年には壮年女子ハーフの部で名越ゆかりさんが、壮年女子10kmの部で川村珠江さんが、とも優勝を果たしました。

第38回大会の優勝者(敬称略)

ハーフ	氏名	所属	記録
一般男子	澁谷 宥介	東京陸協	1時間11分50秒
一般女子	中村 美香		1時間26分06秒
壮年男子	大場 康晴	海老川の力	1時間21分25秒
壮年女子	名越ゆかり		1時間29分09秒
10km	氏名	所属	記録
一般男子	平野 慶介		33分07秒
一般女子	川内 菜桜		40分29秒
壮年男子	田口 宏之	こうかいぼうRC	36分26秒
壮年女子	川村 珠江		42分37秒

した。各部門の優勝者は左表のとおりです。



区長と話そう! こうと〜く

江東ブランド認定企業の皆さんと意見交換 Part2



▲区長を囲んで皆さんと
▲ものづくりに熱心で優秀な企業の皆さんが参加しました



11月12日、「区長と話そう! こうと〜く」が行われました。前回好評だったことにより、今回も優れた技術でものづくりを行い、それを守りながら継承している「江東ブランド」の認定企業の皆さんと山崎区長が語り合いました。

認定企業の皆さんは、まず製品や技術の1押しポイントや他社との違いについて説明し、交流を深めた後、江東ブランドを展開していくにあたっての今後の抱負を話しました。特に、今後の抱負では「江東ブランドとして企業や製品のPRを発信していきたいのは素晴らしいことだと思っている」「江東ブランドに認定され、皆さんの積極性、江東区のブランドを一生懸命やっていたころという姿勢に、自社ももっと積極的に世界にアピールしていこうと思っ」などの意見が出るなど、活発に意見交換が行われました。区長は「江東ブランドの認定企業の皆さんがひとつになれば、もっとも江東区が元気になっていくと思います。これからも一緒にがんばっていきましよう」と話していました。

こうとうトコトコ日和

「めでたいこうとうの福」配布中

今回は巻頭で深川、亀戸の七福神めぐりを特集します。七福神の由来や各寺社の特徴、見所など江東区の七福神ならではの楽しみ方を詳しく案内しています。こうとう運気アップ2019のページでは「こうとう御朱印帳コレクション」として区内で手に入る御朱印帳と、初日の出が見られるスポットや福を招く行事を紹介しています。12月〜2月の区内イベント、まちあるきガイドサービスなども参考に、まち歩きを楽しんでみませんか。

【配布場所】江東区観光協会事務所(東陽4-5-18産業会館内)、こうとう情報ステーション(区役所2階)、文化観光課(区役所4階33番)、各出張所・豊洲特別出張所、各文化センター、区内観光施設等 ☎江東区観光協会 ☎6458-7400、FAX6458-7420



▲トコトコ日和表紙

全国中学校水泳競技大会 女子100m平泳ぎ

黒部 和花さん(大島中3年) **2位**

昨年に続き、全国大会に出場した黒部さん。昨年は「とにかく表彰台に乗ることができたら良いと思っていたので気持ちが楽でした」が、今年は「昨年優勝していたので負けられない」との気持ちで大会に臨みました。惜しくも2位という結果になり「準優勝だったということ、目標にしていた1分9秒台を出すことができなかったことが悔しかった」と感想を話してくれました。昨年から今年にかけて練習後の栄養補給のタイミングについて意識的に取り組むなど、将来に向けて努力を惜しまない黒部さん。「オリンピックに出場し、金メダルを獲る」という目標に向け、ますますの活躍を期待したいと思います。



▲国民体育大会でも好成績を収めた黒部さん

全国中学生テニス選手権大会 男子ダブルス

鹿川 湧生くん(深川第三中3年) **2位**
福島 奎汰くん(深川第三中3年)

偶然にも2人ともお兄さんがやっていたのを見てテニスを始めた鹿川くんと福島くん。見事に全国大会で準優勝しました。「自分の良いサーブと福島くんのネットプレーがうまく噛み合ってポイントが取れてうれしかった(鹿川くん)」「関東大会優勝、全国大会準優勝という結果もうれしいが、鹿川くんと2人であそこまでがんばれたことがとてもうれしい(福島くん)」と大会の感想を話してくれました。今後もテニスを続ける2人の目標は「団体戦、個人戦ともに日本一になる(鹿川くん)」「インターハイでよい結果を残したい(福島くん)」です。



▲表彰式を終え、笑顔の福島くん(左)と鹿川くん(右)

東京都中学校総合体育大会陸上競技大会 男子砲丸投げ

小川 育大くん(深川第五中3年) **2位 全国大会出場**

中学校に入学して砲丸投げを始めた小川くん、見事に全国大会に出場しました。砲丸投げの魅力は「努力と記録が比例するところ」、難しいところは「一見パワーだけで投げているように見えるが、実は細かなフォームの調整が必要などところ。反復練習をたくさんしました」と話してくれました。「14メートルを出す・全国大会で入賞する」という目標を達成できず、悔しい思いしかない」と大会を振り返った小川くん、今後は「高校ではラグビー部に入り、陸上で培ったものを生かして新たにならなうと思っています」と新たな一歩を踏み出します。



▲賞状とメダルを手に笑顔の小川くん

知って得する! vol.33 東京2020オリンピック・パラリンピック

近代オリンピックの第1回アテネ大会は、古代オリンピックと同様に男性選手のみで実施されました。第2回パリ大会から女性が参加しましたが、出場選手997人のうち22人でした。それから100年以上経過した2012年のロンドン大会では全10,568人中4,676人の女性選手が参加し、初めてすべての競技で男女の競技が開催されました。

オリンピックまであと **591日** パラリンピックまであと **623日**